Nihon Fukushi University　Matsumoto Office Newsletter Vol.25　https://www.n-fukushi.ac.jp/block/office/matsumoto/index.html
発行日：2021年11月6日

日本福祉大学　第25号
松本オフィス通信

No.1　学生奮戦記、WEBコンテンツ紹介
No.2　ようこそ！日本福祉大学へ はばたけ、新入生！
No.3　保育・幼児教育専修の学び 日福卒業生はいま
No.4　入試情報、NIPPUKU NEWS

学生奮戦記

大学生活の４年間は長いようであっという間。４年生の皆さんにとって、この２年間はコロナの影響で本当に厳しい状況でした。困難に向き合いながら歩みを進める学生たちの姿を紹介します！

気持ちに寄り添うことの出来る看護師を目指して

看護学部看護学科 4年
磯部 あさか さん（松本第一高校出身）

看護学部での学び

大学での4年間、看護に関わる専門知識や技術を学ぶだけでなく、看護師として大切な心得を演習や実習を通じて知ることができました。

看護学部では1年次のうちから専門的な内容を学ぶのではなく、一般教養（英語など）や“看護とは何か”といった基礎的な学びからスタートし、4年間で体系的に看護の知識をつけることが出来るため、安心して学ぶことができました。

大学での学びを通じて感じたことは、「基礎固め」はとても大切であるということです。1年次のうちから「授業に集中する」、「コツコツと復習する」ことで、2年次以降に履修が始まる専門的な講義や実習へもスムーズに対応することができると感じています。

私自身、基礎固めをしっかり行ったことで、実習記録を速やかに記入したり、指導者の方からの急な質問にも対応することができたと実感しています。

看護実習

看護実習では患者さん一人ひとりに様々なケースが生じるため、アセスメント(※1)や看護計画の重要性を感じることが多くありました。中でも強く印象に残っているのが術後の患者さんを受け持った時のことです。術後はどんな患者さんでも痛みが生じます。私が受け持った患者さんは特に「痛みに敏感である」ということを知っていたため、「痛い」と訴えれば、医師の指示の下で痛み止めを入れていました。しかし、一般的に痛みが消失するといわれている日数が過ぎても変わらず痛みを訴え続け、術後の回復を早めるための散歩を提案しても、「(痛みがあるから)今日はいい」と断られてしまうことがありました。先生や担当の看護師さんと相談し、「薬が作用している(痛みが少ない)時間に活動を促してみよう」と看護計画を立てていましたが、翌朝病棟に行くと「縫合不全があったため緊急手術を行い、今は集中治療室にいる」と伝えられました。患者さんの痛みの訴えは決して大げさなものではなかったと知り、「もっとしっかり受け止めるべきだった」ととても後悔しました。

この経験から、「患者さんの訴えには先入観を持たずに耳を傾けることが大切である」ということを学びました。それまでも、患者さんの訴えには常に耳を傾け、受け止めていたつもりでしたが、どこかに先入観があり、心の底から共感し、受け止めきれていなかったと気づき、自分自身を見つめ直すことができました。

実習現場では様々な患者さんと出会い、関わらせていただきます。その度に命の尊さを感じ、「今、自分が健康でいられるのは当たり前のことではない」と気づかされます。

新たなステージへ

長かった4年間の学びも残り数ヵ月。来年の4月からは関西地方の大学病院で勤務する予定です。

目標は「患者さんの気持ちに寄り添うことの出来る看護師」になることです。4年間で培った学びと経験を生かし、常に患者さんの事を考え、生活の支援をすることのできる看護師になれるよう頑張りたいと思います。

※1・・・情報の収集・分析・統合

長野県出身学生も登場！

NIPPUKU 365 DAYS & NIPPUKU 47 prefectures

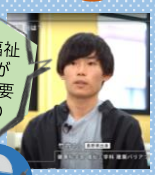
全国各地から日本福祉大学に進学した学生を紹介するコンテンツ２つをご紹介します。
１つ目は「NIPPUKU365DAYS」。昨年、美浜キャンパス編を公開し、下宿生のリアルなキャンパスライフをお届けしました。
今年は半田・東海キャンパスの学生にスポットを当て、大学での学び、アルバイト、下宿でのひとり暮らしはもちろん、「熱中していること」についてご紹介しています。
長野県からも４人の学生が登場！日本福祉大学の学生たちが今、夢中になっていることは何か？それぞれの学部生の雰囲気も併せて、ご覧ください！
２つ目は今回新たに制作された「NIPPUKU47 prefectures 」。47都道府県から学生が集まる日本福祉大学。
全国各地から進学した学生の皆さんに「知多半島の印象」「日福を選んだ理由」「一人暮らしのエピソード」について教えてもらいました。
県民性豊かな回答が盛りだくさん。各県自慢の名所、特産物などのご当地ワードもお楽しみください！

NIPPUKU 365 DAYS

患者さんの心に寄り添ったケアのできる看護師になりたいです。

先生と学生の距離が近いというのは感じています。

女子フットサルサークルで友達の輪が広がるのが楽しい！



建築と福祉の関係がかなり重要になるのでは・・

今年度新たに公開された動画は３本。東海キャンパス編に登場する看護学部の磯部あさかさんは長野県出身学生。松本オフィス通信今号でも看護学部での学びについて紹介していただきました。熱中時間編でも磯部さんの他に３名の長野県出身学生が登場。学生たちが今、夢中になっていることとは？

NIPPUKU 47 prefectures

二年後、教師になって信州へ帰ります！

北は北海道から南は沖縄まで、学生が集まる日本福祉大学。全国から見た愛知県、愛知県に住んで改めて知った故郷の良いところ。地元にいると気づけなかったことに気づけたことも貴重な経験かもしれません。長野県からは教育・心理学部の学生が登場しています！

ようこそ！
日本福祉大学へ

不安な時こそ、支え合える仲間づくりを！

社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉専修
3年　佐藤　亜美佳さん（岩村田高校出身）

　みなさんこんにちは。長野県人会長の佐藤です。
　昨年から感染が収まらないコロナウイルスのため、なかなか思うように行動できないことが続いています。今年度は対面で講義が始まったものの、感染拡大を受けてまたリモート授業に戻ってしまいました。県人会としての活動も同様、なかなか顔を合わせてのイベントが行えないこと、非常に残念に思います。
　長野県人会では毎年たくさんのイベントを行ってきました。大学祭での出店をはじめ、新歓や夏にはＢＢＱ、また長野県に出向くイベントもあり、同郷の人同士のかかわりはとても貴重なものだと感じています。今後はオンラインでのイベントやコロナが落ち着けばオフラインでのイベントも企画していく予定なので、皆さんぜひ一度参加してみてください。
　さて、ここで私自身のことについて少しお話ししようと思います。私は現在、社会福祉学部医療専修の３年生ですが、大学に入ってからの約２年半たくさんの経験ができ、そして成長できたと感じています。元々医療ソーシャルワーカーを目指して日福に入りましたが、１年次に参加した辰野町のフィールドワークや留学した経験から福祉の多様性を感じ、２年次にはゼミ活動で認知症啓発プロジェクトに関わり、問題・課題の見せ方や伝え方の重要性について考えるようになりました。
　現在はクラウドファンディングを行い、認知症啓発プロジェクトで製作した絵本を知多半島の子どもたちに届ける活動を行っています。これまでの活動から、今後はデザインを活用して情報を発信していく側になりたいと考えています。
　また今年の夏休みは、県人会のＯＧの方と一緒に美浜町の古民家カフェを間借りし、２日間限定の「みかんカフェ」を運営しました。

　２日間で１００人以上の方にご来店いただき、企画や運営といった面や地域の盛り上げ方という面でとても貴重な経験ができたと感じています。
　こうした様々な経験の中にも県人会としての繋がりは大きく関わっていると思います。ＯＢ、ＯＧを含め長野県人会にはいろんな人がいます。大学側からのサポートも手厚く、ここで得た繋がりは今後も役に立つと思います。
　コロナ禍で思うように楽しめない部分もあると思いますが、そういった不安なども県人会のメンバーと共有してみませんか？これから皆さんと一緒に県人会を盛り上げていけると嬉しいです！

オープンキャンパスに参加してくれた
みなさんにも絵本を紹介

SDGs AICHI EXPOで
認知症啓発プロジェクトを紹介

県人会のOGの方たちと一緒に
みかんカフェを運営

はばたけ
新入生！

故郷を離れ、愛知県で新たな生活を始めた１年生

今しかできない学びと経験、応援します！

2021年4月、長野県から89名の新入生（通学課程）が日本福祉大学に入学しました。昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、多くの制約や環境の変化に翻弄される日々ですが、皆さんの柔軟な適応力、変わらず学びを進める姿にたくましさを感じます。

変則的な形であっても、多くの学友と共に今しかできない経験が一つでも多くできるよう、松本オフィスも全力でサポートさせていただきます！
新入生を代表して2人の学生に入学後の自身の変化や今後の抱負について教えてもらいました。

　私は、聴覚に障がいを持っています。そのため、人よりもできないことがあります。けれど、「耳が聞こえないから、できない」と決めつけたくはありません。四年間の大学生活の中で、色々な挑戦をしていきたいと考えています。
　入学してからもオープンキャンパスのスタッフや、学生支援に携わってきました。今後もこういった活動を続け、災害ボランティアや福祉に関するセミナーなど新しいことへも挑戦し、四年間の中で自分の視野を広げていきたいと考えています！そして、障がい学生として、自分から動き、発信できるようにしたいです。
　私の夢は、長野県で地域福祉に関わる仕事をすることです。大学では、講義や文献を通して、地域と福祉の関係について深く学び、自分の考えを深めていきたいと思っています。

　社会福祉学部　１年　小沢　萌水さん

　私は大学生活を始めた当初、戸惑ったことがあります。それは「何事も自分で確認しなければならない」ということです。大学生活に関する指導や情報は自身で聞きに行く・調べることが求められます。入学当初はPCの使い方もつたなく、学生専用の掲示板に掲載された重要事項を見落とすなど確認不足も多かったため、高校までの環境は甘いものだったのだと再認識させられました。
　これまでの環境とは一変した生活からは学ぶことも多く、今では入学当初よりも成長したと自負しており、自身が社会福祉士としてどのような場面で活躍したいかや、福祉施設でのアルバイトに挑戦したいなど、物事を具体的に考える機会が増えました。これから多くの知識と教養を身につけ、自身の理想に近づければと思います。
　社会福祉学部　１年　原　仁さん

Q. 日本福祉大学 教育・心理学部 子ども発達学科 保育・幼児教育専修って どんな学びをするの？

18歳からの育ち直しと 子ども観を鍛える保育者養成

日本福祉大学 教育・心理学部 保育・幼児教育専修
東内 瑠里子 准教授

日本福祉大学は、豊かな自然と人に恵まれた愛知県美浜町にある。私は、教育学（社会教育・学校外教育）を専門にしながら、ゼミの学生たちと森のようちえんの実践をしている（昨年は新型コロナ感染症の影響で休止）。

昨今、非認知能力（忍耐力、社会性、感情コントロールなど）の育ちの重要性が指摘され、乳幼児の興味関心や意欲を尊重した保育が求められている。自然を活用した保育は、乳幼児が、大人や社会（狭い屋内だけでの遊びや交通事情など）からの制限を受けず、自分の興味関心に沿って、可塑性に富む土や水、多様性に富む動植物に触れ、センス・オブ・ワンダーを育てる環境構成がなされている。

例えば、注意欠如・多動症（ADHD）や、HSP（環境感受性の高い）の子どもでも、自然の中では、保育者のていねいな関わりさえあれば、個性を発揮して、のびのびと育っていける。また自然の中での遊びは、経済的負担をかけずに、誰にでも平等に、豊かな学びを保障してくれる。さらに、SDGsの視点からも、子どもたちの「すてきな遊びを保障してくれる自然を大切にする」志向性を高めることができる。つまり、保育者が自然の中での豊かな遊びの方法・技術を学び、その中での子どもの見方を鍛えることは、とても重要である。まさにすべての子どもが平等に「ふつうのくらしのしあわせ」を実感できる保育者になるための養成カリキュラムである。

学生たちは、大学内の講義で、このような理論を学んでいる。しかし、実践できるかどうかは、また新たなステージでの課題となる。1・2年生で机上の理論を学んできた学生は、3・4年のゼミで、実際に、森のようちえんで実践してみる。実践した後、保育ドキュメンテーションを作成し、それをもとにミーティングを行う。

これらを通して学生たちは、自分たちの実践的力量のなさに戸惑いと困難を感じ、悩みに悩む。その中で、子ども観を鍛える以前に、おとな同士が議論し合うこと、価値観の違いをすり合わせることの難しさにもぶちあたる。

例を挙げてみると「森のようちえん開始直前に、蜂の巣を発見する事件」というのがあった。ある日の朝、森のようちえんの事前準備をしているときに、朝の会の実施予定場所に、蜂の巣があり、学生が刺されるという事件があった。事前確認はしていても、足元のデッキの裏側という死角であった。刺された学生は大事にはいたらなかったが、学生たちは「森のようちえん開始までに時間がない」「参加者の安全確保をどうするか」「この広い森のどこに蜂の巣があるのか、全部を点検しきれない」「子どもの主体性を尊重したいが、これでは自由に動き回る子どもの遊びが保障できないのではないか」と、焦りもあり、それこそ喧々諤々（けんけんがくがく）もめにもめた。このもめごとは、3年生のゼミ内で2か月間ほど尾を引き、ぎくしゃくする関係が続いた。しかし、このトラブルのおかげで、本音を語り合うミーティングを開くことができ、お互いの違和感や他者との感性の違いを、これまでお互いが伝え合えてきたかの再確認を行うことができた。

このように、学生たちが飾らない等身大の自分たちの力で実践し、このようなエピソードを様々経験しながら、人との関係の中で葛藤し、そのことを自分の言葉で相手にぶつけ合うことを通して、自分を見つめなおし、「少しずつ」成長していく。

「少しずつ」の成長ではあるが、人が育つプロセスにかかわる専門職である保育者は、外部からの評価以上に、このような同僚集団での自己形成プロセスをたどって、長い年月をかけ、自分自身を成長させていくものである。2年間では足りない！4年「も」かけて18歳が育ちなおす意味が、ここにある。

保育・幼児教育専修 特設サイト ⇒

「森のようちえん」の取り組みはコチラ⇒

笑い、涙、感動を子どもたちと共に

木曽町立木曽幼稚園 園長　野口 恵理香さん
（日本福祉大学女子短期大学部 保育科 1988年度卒）

A. 保育・幼児教育・社会福祉の視点を持って、子どもの力を信じる保育者を養成しています。卒業生が、全国各地で保育士・幼稚園教諭として活躍しています！

自分の夢・進路

「子どもが好き」という単純な理由で、幼いころから将来の夢は保育士になる事でした。保育士の資格を取得するのに県内の保育士養成校へ行くことも考えましたが、進路指導の先生の勧めもあり、日本福祉大学の短期大学部に進み、卒業後は1年間の養護施設勤務を経て、地元の公立保育園に就職しました。

幼稚園を有した町との町村合併により、現在は木曽幼稚園で園長を務めています。

教育実習生への願い

木曽郡内には幼稚園が1園しかないため、年間10数名の実習生を受け入れています。

責任実習では多くの学生さんから「自分の予想していた子どもの動きと違い、計画通りに進められなかった」という感想が聞かれます。また、子どもの気持ちに寄り添ったかかわりを心がけたいと目標にする学生さんも多くいます。実習の終わりに、子どもの発達など知識を身に付けることはもちろん、自分が美しいと思うものを見たり、新しいものに出会ったり、学生時代に様々な体験をして感じる心を豊かにしてほしいとお願いしています。

子どもがどんなことに興味を持ち、何を楽しんでいるのか、どんな学びをしているのか、子どもがどう感じるのかを想像できるよう、豊かな心を育むことが保育者に求められていると感じるからです。自分自身の心を豊かにし、相手を慮る人になってほしいと願い、学生さんにそんなお話させていただいています。

学生時代を振り返って

私の学生生活は2年間。その頃は保育士資格、幼稚園教諭免許を取得するのに短期大学へ進学するのが一般的でした。今思うと学校での学び、実習、就職活動と、とにかく忙しかったように思います。

2年間の短い学生生活でしたが、自分と同じように自宅を離れ下宿生活を送る各地方からの友だちとの出会いは、大げさかもしれませんが、「世間を知る」きっかけになりました。また、他の学部ではありますが、障がいのある学生さんも多く、それが当たり前の環境であったことは、一人ひとりを尊重し、多様性が重視される保育・教育の現場に携わるにあたり、良い経験になりました。振り返っても、専門的な学びと実習、就職活動で忙しかった記憶があります。今はコロナウィルス感染拡大で制限がありますが、学生の間にいろいろなことを楽しんで、視野を広げてほしいと思います。

保育を目指す皆さんへ

何歳になっても、子どもと一緒にいることで、園外で虫を捕まえたり、草の土手を段ボールで滑ったり、その様子を見た人から「何しているんだろう？」と怪しまれることなく楽しむことができます。行事を通して季節を感じることができるのも、保育、教育現場だからこそではないでしょうか。そして何より、毎日が新鮮で、毎日が学びの場。子どもたちから教えられることもたくさんあります。大変なこともありますが、子どもと一緒に笑い、時には涙し、感動を味わうことができます。子どもの「あー楽しかった」の笑顔を思い浮かべると、疲れも吹き飛んでしまうくらい、やりがいのあるステキな仕事だと思います。

ふくしのお仕事紹介
私の仕事
日福卒業生はいま

2022年度入試情報

【重要】
各入試内容については「入学試験要項」、「入試ガイド」を必ずご確認ください。

※2021年11月1日現在

	入学試験区分	出願期間	試験日 前期	試験日 中期	試験日 後期	合格発表
総合型選抜	スポーツ分野入学試験	~~前期:9/17(金)~9/27(月)~~ 中期:11/23(火)~12/1(水) 後期:1/24(月)~2/2(水)	~~10/17(日)~~	12/12(日)	2/12(土)	前期:11/1(月) 中期:12/17(金) 後期:12/19(土)
	文化・芸術分野入学試験					
	AO入学試験		~~10/24(日)~~			
	高卒認定、海外帰国生徒、高等学校卒業者、定時制・通信制高等学校入学試験	前期:11/1(月)~11/10(水)	11/21(日)	―	―	前期:12/1(水)
学校推薦型選抜	一般推薦入学試験	前期:11/1(月)~11/10(水) 後期:11/23(火)~12/1(水)	11/21(日)	―	12/11(土)	前期:12/1(水) 後期:12/17(金)
	指定校推薦入学試験	前期:11/1(月)~11/10(水) 後期:2/7(月)~2/23(水)	11/28(日)	―	3/4(金)	前期:12/3(金) 後期:3/12(土)
一般選抜	一般入学試験	前期:1/3(月)~1/22(土) 後期:2/7(月)~2/23(水)	2/3(木) 2/4(金) 2/5(土)	―	3/5(土)	前期:2/19(土) 後期:3/12(土)
	社会福祉学部スカラシップ入学試験	前期:1/3(月)~1/22(土)			―	前期:2/19(土)
	大学入学共通テスト利用入学試験	前期:1/3(月)~1/24(月) 後期:2/7(月)~2/23(水)	―	―	―	前期:2/19(土) 後期:3/12(土)

CHECK

1 進学相談会で進路に関するご質問やお悩みにお答えします

11月末~12月に長野県内(飯田市、伊那市、松本市、長野市)で開催予定の進学相談会に本学も参加します。お近くの方はお立ち寄りください。

2 大学案内、入試ガイド、過去問題集をお届けします！

日本福祉大学の入試に関する資料をご請求の方は右記の資料請求サイトからお申込みください。また、松本オフィスでもお渡しできますので、お近くの方はお気軽にお立ち寄りください。

3 入試に関することは「受験生サイト」をチェック！

日本福祉大学のことが気になったらまずは本学HPの「受験生サイト」をチェック！大学・学部のことが一目でわかる「WEBオープンキャンパス」をはじめ、入試にまつわる様々な情報が入手できます。

4 松本オフィスにて個別面談、オンライン面談を承ります！

「大学や学部の詳しい説明が聞きたい！」「自分はどんな入試が向いてるのかな…」などで、お困りではないですか？そんな時にはお気軽に松本オフィスまでご連絡ください。

5 LINEのお友達登録で最新情報をゲット！

ネット出願、出願期間の情報はLINEと受験生サイトを中心に告知していきます。
その他、イベント情報、キャンパスライフ情報などもお届けします！

NIPPUKU NEWS

NEWS. 1

「日福と長野県」をリニューアルしました！

日本福祉大学と長野県の深いつながりをご紹介するサイト「日福と長野県」。
この度、新たな情報を追加し、サイト内を一部リニューアルいたしました。今回、新たに掲載された卒業生インタビューでは企業(建築)、特別支援学校、社会福祉協議会にお勤めの先輩4名に学生当時のことや現在の仕事についてお話いただきました。ぜひ、ご覧ください。

日福と長野県　検索

NEWS. 2

新企画

「卒業生・在学生紹介」公開しています！

日本福祉大学地域ブロックセンターのサイト内で、全国各地の卒業生・在学生を紹介する新企画が始まりました！
長野県からも現在、在学生1名、卒業生1名の方にご協力をいただき、インタビュー内容を公開しています。
気軽に読んでいただける内容となっていますので、ぜひ一度ご覧ください！

日本福祉大学　松本オフィス
〒390-0815　長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL：0263-31-9011　FAX：0263-32-8018
開館時間：9：30~17：30(日・月・祝は休館)
MAIL：e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

松本オフィスへご質問・ご相談はこちらのフォームから➡